

第1回総合計画策定懇話会における意見と対応

NO	意見	対応案
1	少子化・人口減少といった現状を踏まえると、医療保健の充実が戦略にも必要ではないか。	医療分野は、成長戦略としてではなく、行政が担う根幹として将来都市像(3章-2節-2項)に記載する。
2	戦略6は、出産・育児への支援の前段階として結婚支援が必要ではないか。	重点プログラム(3)若者の自立支援において、具体の事務事業を検討する。
3	「エイジフレンドリーシティ」は言葉として市民になじみが薄いと思うがどうか。	市長公約の一つであり、今後市民に浸透するよう取り組む。 なお、「高齢者にやさしいまち」だけでなく、ひろく市民共生・市民協働の観点も盛り込んでいく。
4	市街地の地価下落が著しいが、土地政策を総合計画に盛り込まないのか。	総合計画では、街の魅力を高めることで、結果的に土地の価値が上がるような施策を示していく。 土地政策そのものについては、「総合都市計画」の中で位置づける。
5	「コンパクトシティの実現」を前面に押し出していく必要があると思うがどうか。	将来都市像の「市街地形成」(2章-2節-1項)に取り込む。
6	「ブランド」という言葉が多いが、既に他の都市でもやっているものが並んでいる。すべてやるとイメージが曖昧になるので、どこに力を入れるか示すべきではないか。	戦略2から6の中でも、ブランドにつながるものもあることから、重点プログラムや具体の事務事業の段階で絞り込む。
7	懇話会の中で、第11次総合計画のレビュー(総括)をする機会はあるか。	参考資料として、第11次総合計画の総括を配布する。
8	「教育」のキーワードが必要ではないか。大学(高等教育機関)と行政の連携が見えない。	将来都市像の「高等教育」(5章-2節-3項)に取り込む。
9	若者が秋田に戻って農業を始めているケースが見られる。こうした世代に対応した、作る・加工する・販売するといった一貫した戦略メニューも必要ではないか。	農業も成長戦略の重点プログラムに追加する。

NO	意見	対応案
10	秋田市は将来都市像であげている「まちづくり」の要素は既に持っている。再構築よりも活力を取り戻す方法を考えればよいのではないか。	広域観光など、既存の資源を連携させる、または繋がる物語を作るなどの取組が考えられることから、戦略1・2を中心に事務事業を検討する。
11	美短自体がブランドである。美短が活躍できる場の整備、美短を支えるアクションを市が行う必要がある。	中心市街地への美短関係の展示スペースの整備や、4大化も含めた「芸術のまちづくり」の将来像を検討していく。
12	観光戦略に市の主体性が見えない。他市町村などとの連携や、特区活用によるブランド構築など、市も取り組むべきと思う。	成長戦略の具体の事務事業の段階で検討する。